

明日の医療を担う!

平成31年度 広島大学医学部
ふるさと枠のご案内
[広島県コース]



広島大学



広島県
Hiroshima Prefecture



地域医療を担う医師の育成について

広島大学長 越 智 光 夫

今日、我が国は、少子高齢化の急速な進展、総人口の減少など、大きな転換期を迎えています。こうした厳しい社会環境の中で、広島圏域では特に中山間地の地域医療を担う医師と特定の診療科の医師不足が深刻です。そうした中で、平成 20 年には「“ みんなで守ろう広島県の医療 ” 緊急アピール」が発表され、平成 21 年から広島大学と広島県が連携して広島県での医療を担う人材を育てるため「ふるさと枠入試」を開始いたしました。

幸いにも平成 21 年に 5 名、平成 22 年から平成 24 年は各年 15 名、平成 25 年以降は各年 18 名と順調に優秀な学生が入学し、一般学生とともに充実したキャンパスライフを楽しんでいます。これまでに 158 名の方が入学し、そのうち 50 名が既に卒業され、現在、全員が県内の公的医療機関等で臨床研修や実地臨床に励んでいます。このふるさと枠で「診療科の選択の自由がない」とか「先進的な医療の勉強ができない」といったことはまったくありません。「総合医」や「専門医」になるのも基本的には自由です。広島県内で医療人として活躍したい、医療を通じて社会貢献を果たしたいという方を広島大学は全力で応援します。

どうぞ奮ってご応募いただきますようお願いいたします。



ふるさと枠をめざす皆さんへ

広島県知事 湯 崎 英 彦

広島県は、現在、県政の基本となる 4 つの政策の柱の一つとして、「安心な暮らしづくり」を掲げ、県民の皆様が、健康で豊かな生活を送られるとともに、県内のどこに住んでいても、安心して必要な保健・医療サービスが受けられるよう、市町をはじめ、広島大学、医師会等の関係団体と連携しながら、地域医療の体制づくりを推進しています。

その中で、県内には、多くの中山間地域や島嶼部があり、過疎・高齢化や、人口減少が進む中で、地域の医療をどのように守り・支えていくかが大きな課題となっています。

広島大学におかれては、平成 21 年度入学者から、医学部医学科に「ふるさと枠」制度を創設され、地域医療を担う医師の養成を計画的に進められるとともに、平成 22 年度から「地域医療システム学講座」を設置して、地域医療を学ぶ教育活動の推進や卒業後を含めた支援の充実を図るなど、本県の地域医療を支える医師の育成に精力的に取り組まれています。

ふるさと枠制度は、平成 29 年度末までに 50 名が卒業し、このうち初期臨床研修を修了した 19 名が、地域の期待に応えるべく、県内各地での勤務を開始しています。ふるさと枠での学びや経験が大きな糧となって、将来、県内各地の地域医療を支える中心的な役割を担い、大いに活躍されることを、心から期待しています。

本県では、「仕事でチャレンジ！暮らしをエンジョイ！活気あふれる広島県」を目指す姿に掲げ、仕事も暮らしも欲張りに追求できるライフスタイルの実現に向けて、人づくり、経済、暮らしなどあらゆる分野で、新たな活力を生み出すための様々な取組に挑戦しています。

是非、皆さんもふるさと枠を目指していただき、将来の地域医療を担うという高い志をもって何事にも欲張りにチャレンジしてください。ご自身が描く将来像が、心身ともに充実した形となって実現されるよう応援しています。

～ 広島大学医学部ふるさと枠で学べること ～

基本的には、全ての授業・実習において一般の学生と全く同じ内容を学習します。小グループごと
のゼミナールにおいても一般の学生と混ざるようにグループ分けをしています。しかし、それとは別
に、ふるさと枠の学生を対象としたプログラムがあります。そこでは、定期的なミーティングや休み
の期間中を利用した実習などを通して、皆さんが総合診療や地域医療を早期に体験できるよう企画し
てあります。将来皆さんがどんな専門性を選択されるかは基本的には自由なのですが、総合診療は全
ての診療の基礎となるものです。それらを早期にしかも深く体験できるよう配慮しています。

広島大学医学部長からのメッセージ



広島県では、これまで多くの高校生が県内あるいは県外の医学部で学び、卒業し、
医師となって広島県の医療を支えてきました。広島大学医学部は、広島から世界に
広がる総合的な医学を標語に、地域を支える医療の担い手と世界に発信する医学の
牽引者を育成しています。ふるさと枠は、地域医療への強い思いを持つ人を求めま
すが、求めるところは高い志と公共心です。広島に熱い思いを持つ人たちが、広く
高度な医学、医療に挑戦されることを期待しています。

広島大学医学部長 秀 道広

広島大学医学部ふるさと枠の先輩から

ふるさと枠は、同じ目標をもった仲間と日々切磋琢磨できる素晴らしい制
度です。普段みんなで受ける授業とは別に、お昼休憩や夏期・冬期の長期休
暇を利用して、みんなで地域医療について学ぶことができます。そういった
行事を通じ、ふるさと枠生同士で学年関係なく仲を深めることができ、大学
生活をより楽しいものにできます。そんな充実した大学生になりたい方は、
ぜひ一緒にふるさと枠でがんばってみませんか？お会いできることを楽しみ
にしています。

医学科5年 岡嶋瑠那

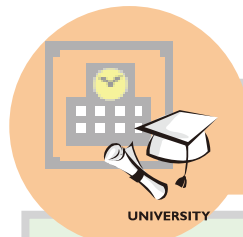


ふるさと枠は、将来広島の医療を担う人を育成するものですが、難しく考
えることはありません。普段は他の医学科生と変わりありませんし、むしろ
長期休暇の実習や任意のセミナーに参加することで、自分が目指す姿につい
ての意識を高められ、また、先輩方や後輩と仲良くなれるので、自分の財産
になります。

広島で医師として働きたい方、是非ふるさと枠でお会いしましょう。

医学科4年 七尾裕太





入学から卒後の進路

《 例 示 》

入 学

※ 教育：広島大学医学部

卒 業

臨床研修（2年間）【義務期間内】

広島県の医師育成支援

地域医療マインド養成プログラムの実施

ふるさと卒卒業医師に係るキャリアプランの実施

広島県地域医療支援センターによる支援

県内の公的医療機関等（7年間）【義務期間内】

対象となる医療機関の詳細は「推薦入試学生募集要項」に紹介あり

（例）広島大学病院、県立広島病院、広島市民病院、広島赤十字・原爆病院、JA広島総合病院、安芸太田病院、JA吉田総合病院、東広島医療センター、済生会広島病院、中国労災病院、三次中央病院、庄原赤十字病院、神石高原町立病院、尾道市立市民病院、JA尾道総合病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院、福山市民病院、府中北市民病院、府中市民病院 など

うち、4年間は中山間地域等の公的医療機関等
又は知事が指定する診療科

*義務年限9年

※ふるさと枠入学に関する情報は広島大学医学部の教育に関わる関係者に共有されます。

***卒業後12年間の猶予期間の中で、9年間の義務に従事することになりますので、途中、希望により3年間まで県外での専門研修、留学、学術研究等を行うことができます。（義務期間外）**

ふるさと枠奨学金制度の概要

○募集対象 ①及び②の要件を満たす者

①広島県内の高等学校を平成29年4月以降に卒業した者及び平成31年3月に卒業見込みの者

②広島県が貸付ける奨学金を受給し、かつ卒業後は広島県で医療に従事する強い意志のある者

○貸付期間 平成31年4月から平成37年3月までの6年間

○貸付金額 年額240万円（月額20万円×12月）

○貸付利息 貸付日の翌日から、貸付期間の終了月の末日までの日数に応じて、民法で規定する法定利率（平成30年4月現在：年5%）で計算した額

○返還免除 貸付終了後、貸付期間の2倍に相当する12年間は、奨学金（利息を含む。）の返還を猶予します。その間に、別途定める基準に沿って、次の条件をともに満たした場合、奨学金（利息を含む。）の返還を全部免除します。

【条件1】 貸付期間の1.5倍に相当する9年間（必要従事期間。広島大学病院等県内での初期臨床研修2年間を含む。）を、広島県内の公的医療機関等において医師の業務に従事する。

【条件2】 必要従事期間から初期臨床研修2年間を除いた7年間のうちの4年間で、次のいずれかで従事する。

①知事が指定する県内の中山間地域等の公的医療機関等

②公的医療機関等において知事が指定する診療科

広島大学大学院医歯薬保健学研究科地域医療システム学講座からのメッセージ



当講座は平成22年度に広島県の寄付講座として設置されました。ふるさと枠の学生の皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、また卒後の進路に夢を持てるようにすることが大きな目的の一つです。ふるさと枠というのは比較的新しい制度ですので、皆さんの不安が起らないように、一人一人の思いを聞きながら支援していきたいと考えています。入学後から定期的にミーティングをしながら、たくさんの企画を準備しております。広島県の地域医療を引っ張っていただけるような人材に育っていただきたいと願っております。

地域医療システム学講座 教授 松本正俊

広島県健康福祉局長からのメッセージ

広島大学医学部ふるさと枠は、広島大学と広島県が一体となって、地域医療を志す医学生を募集し、中山間地域等の医療提供体制を支える情熱を持った医師を育むことを目的とした制度です。

医療は、現場の様々な専門職の役割分担と協力の上で成り立っていますが、中でも地域医療を担う医師は、患者を広く診ることに加えて、生活に深く関わり、家族も含めて支える医療を提供することが求められることから、福祉・介護分野等とも連携して地域全体で支えていく中心的な役割が期待されます。

その役割はとても大きいものですが、患者や家族を地域で支える医療を提供していくことは、何ものにも代え難い経験であり、また、「地域の期待に応える」というやりがいや喜びを得られます。

県としても、地域医療への想いをもって医師を目指される皆さんの熱意に対して、しっかりとバックアップしていきます。将来、ふるさと枠での学びや経験を通じて、県内の地域医療を担う医師として成長され、大いに活躍されることを心から願っています。



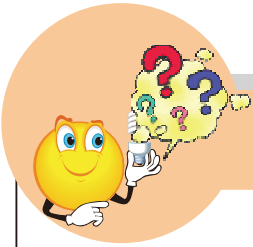
広島県健康福祉局長 田中 剛

地域病院からのメッセージ

この数年、地域医療の現場では医師不足が進み、日本全国で厳しい状況が続いていますが、これまで地域医療の現場の楽しさを医学生や若い医師に十分に伝えられていなかったことも医師不足を招いた原因かもしれません。地域医療は、プライマリーケアそのものであり、各科を超えたさまざまな疾患の初期診断や治療、救急医療、生活習慣病、終末期医療、老人医療、介護問題など、その内容は多岐にわたり、医師として大変やりがいのある、魅力ある仕事です。「ふるさと枠」の仲間が地域医療をもっともっと楽しく、魅力のあるものにしてゆきましょう。



神石高原町立病院 副院長 服部文子



Q & A

Q
A

広島大学ふるさと枠の学生は、他の学生と違う学部教育を受けるのですか。

全ての授業・実習から、地域医療実習を含む臨床実習に至るまで、全く同じ内容を学習します。それとは別に、ふるさと枠学生を対象としたプログラムがあり、定期的なミーティングや休暇中のセミナーなどを実施します。ふるさと枠学生に対しては、在学中に積極的に国内外での見聞を広め、クラスを引っ張っていく存在になれるよう、指導致します。

Q
A

広島大学ふるさと枠の卒業生は、自分の行きたい「科」を選ぶことが出来るのですか？

「広島県医師育成奨学金制度の概要」に記載してある返還免除の条件2の①には、自分が将来目指す「科」について、特に制限は書かれていません。ただし、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますので、研修中は、原則として総合医としての修練が必要です。これらの総合医としての経験は、その後総合医としてキャリアを歩む場合はもちろん、専門医を目指す場合も本人の一生の財産となります。

Q
A

広島大学ふるさと枠の卒業生は、いわゆる「専門医」を目指すことは出来るのですか？

「広島県医師育成奨学金制度の概要」の返還免除の条件2の②に「知事が指定する診療科」という文言があります。これはまさに「専門医」に該当します。つまり県が「深刻な医師不足」と判断した科であれば、その科を選択することができ、その場合、勤務地は中山間地に限定されません（現在は病理診断科が指定されています）。次に「知事が指定する診療科」に行かない場合、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますが、中山間地域勤務期間終了後、専門医を目指す始めることは問題ありません。また中山間地域勤務期間中も、広島大学の地域医療システム学講座と連絡をとりつつ、目指す専門医に関わる広島大学の診療科に所属し、将来の専門医取得に向けて準備を始めることが出来ます。ほぼすべての診療科がふるさと枠卒業生のためのキャリアプランを用意しています。

Q
A

9年間は、先進的な医療技術の勉強ができないのではないですか？

そのような心配を聞きますが、大丈夫です。まず、「総合医」を目指す場合、広島大学の地域医療システム学講座・総合診療科をはじめとした全診療科・卒後臨床研修センター、県立広島病院を中心とする県内の公的医療機関等が支援し、最先端の「総合医」を育成します。次に「専門医」を目指す場合、広島大学の診療科が中心となって全面的にバックアップします。今後、情報回線を利用したテレ・メディスンも発達し、その活動を支えます。この「ふるさと枠」は、私たち納税者・県民によって支えられる制度であり、総合医であれ専門医であれ、広島で活躍する優秀な医師を輩出することを目標と考えています。

Q
A

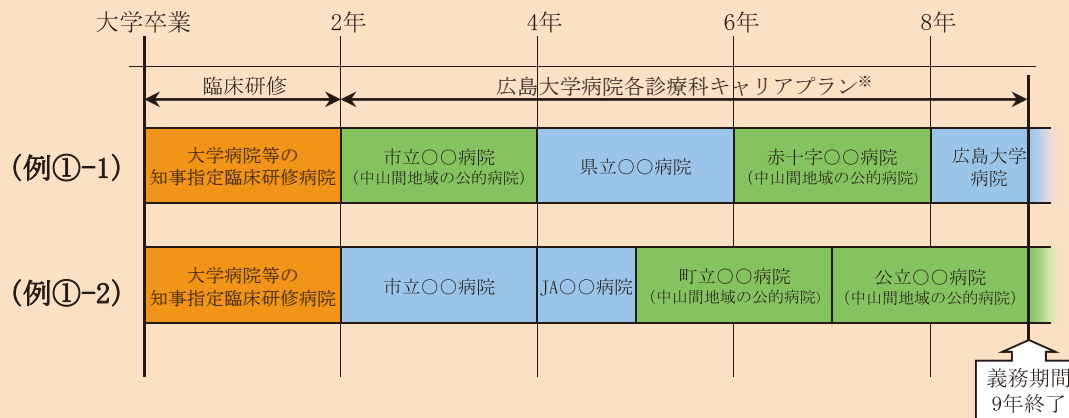
予想されるコースについて実例を挙げていただけますか？

例えば、「初期臨床研修（県の指定医療機関）2年間」→「県内の公的病院3年間」→「県の指定する中山間地域等の公的医療機関等4年間」といったコースが実例として挙げられます。すなわち一般医学科生と大きな違いはないのです。

ふるさと枠入学者の大学卒業後のコース(例)

大学卒業後、知事が指定する公的医療機関等（広島大学病院など）で臨床研修を行い、その後、引続いて県内の公的医療機関等において義務期間を勤務する場合

【例①：義務期間の1／2の期間を中山間地域において勤務する場合】

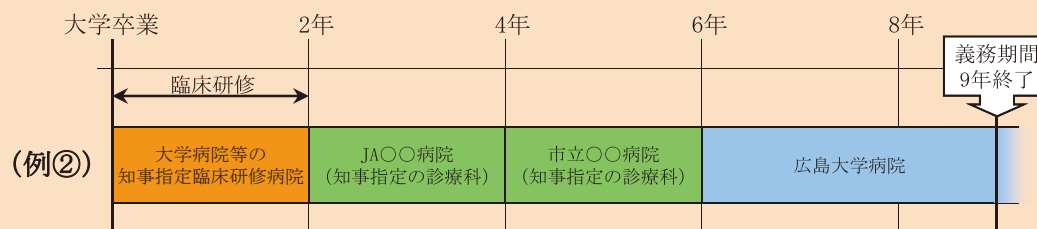


中山間地域の公的医療機関（例）

安芸太田病院，市立三次中央病院，庄原赤十字病院，JA吉田総合病院，
神石高原町立病院，公立世羅中央病院，公立みつぎ総合病院 など

※広島大学病院の専門医育成プログラムを持つ27診療科がキャリアプランを用
意しています。

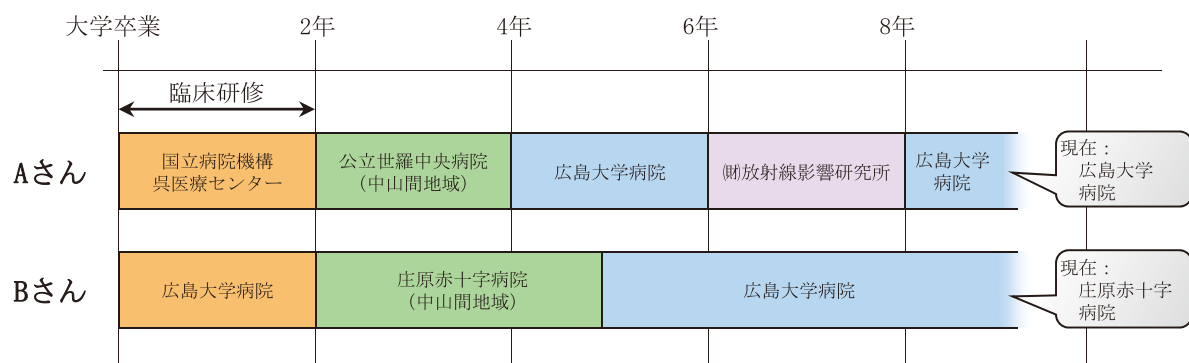
【例②：義務期間の1／2の期間を知事が指定する診療科に勤務する場合】



「知事が指定する診療科」は、今後、深刻な医師不足の状況などを考え、広島
県内で確保する必要性が高い診療科について指定されます。
現在は病理診断科が指定されており、数年おきに見直される予定です。

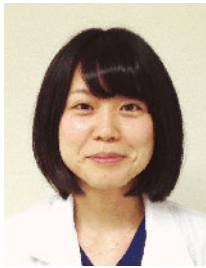
(参考) 大学を卒業後、現在、広島県内の医療機関で勤務している医師の実際例

(ふるさと枠でない医師)





キャンパスライフ



ふるさと枠1期生で現在庄原赤十字病院で循環器内科医として勤務しています。ふるさと枠生は普段は一般の学生と変わりありませんが、長期休暇にあるセミナーでは地域医療を肌で感じることができ、モチベーションの維持につながります。また、自治医科大学生と交流もでき、現場では貴重な繋がりになっています。田舎はまだ医師不足です。広島県の医療を支える一員を目指しましょう！

庄原赤十字病院 循環器内科 板倉文乃

ふるさと枠先輩からのメッセージ

3年生男子

僕はふるさと枠で入学して本当に良かったと思っています。ふるさと枠の学生は毎週水曜日のお昼にふるさとセミナーという集まりに参加します。そこでは学年の垣根を超えて同じ志を持つ沢山の生徒と交流することができ、非常に励みになります！ふるさと枠の学生は100人以上いて、非常に大きなコミュニティです。また、学生時代から実地的な研修に年に三回も参加することができます。様々な経験ができるふるさと枠を使って充実した学生生活を送りましょう！

3年生女子

縦のつながりができること、これがふるさと枠の一番の魅力です。

公式行事以外でも先輩方が飲み会を開いてくださり、そこでは学年を越えて仲良くなることができます。また、先輩方から将来についての考えや体験談、アドバイスをいただくこともあり、とても貴重な機会だと感じています。

このようなつながりは自分にとって大きなプラスであり、大学生活だけでなく将来就職してからも大切にしたいと思っています。

また来年の春に新しいメンバーを迎えるのを楽しみにしています！

同じ志を持つ

仲間がいる

喜び

〈ふるさとセミナーの様子〉



4年生男子

ふるさと枠志望のみなさん、こんにちは！

ふるさと枠の最大の魅力は、やはり夏の地域医療実習です。同じ班の先輩、後輩と学年を超えて仲良くできるだけでなく、現場で患者さんと接することは、日々の勉強に取り組む大きなモチベーションになります。僕自身、学年が進んでわかることが増えるにつれ、実習が何倍も楽しくなったと感じています。

入学前は分からないことも多く心配かもしれませんが、入学後は優しくフレンドリーな先生方、先輩方が皆さんをしっかりサポートしてくれます。この文章を読んでいる皆さんと、春にふるさと生の仲間としてお会いできるのを楽しみにお待ちしております！

4年生女子

ふるさと枠には、広島県で地域医療に従事したいという志を持った学生が集まっています。

大学での授業に加え、春期、夏期そして冬期の長期休暇を利用した実習プログラムによって地域医療との関わりを持つことができます。また、普段からふるさと枠の学生で集まる時間を設けており、他学年との交流を持つとともに地域医療についての理解を深めることができるのも魅力のひとつです！

広島県の医療を支えるためにふるさと枠と一緒に学びませんか？

5 年生女子

ふるさと枠では、長期休暇内に地域の中核病院や診療所で 2 日間の実習を行います。一般枠では、4 年生までは病院の診療現場を体験する機会は少ないですが、ふるさと枠では 1 年生から毎年色々な現場を見ることができ、将来自分の進む道が明確になり勉学のモチベーションにも繋がります。また、実習後には他のふるさと枠生の体験を共有できるので、地域医療についての知識が深まります。多くの経験やふるさと枠生とのディスカッションの場などを通して、自分がどのような医師になりたいかを学生のうちによく考えることが出来るのが、ふるさと枠の良さのひとつだと思います。

5 年生男子

ふるさと枠は同じ志を持った仲間と日々一緒に勉強が出来るという素晴らしい制度です。普段の大学生活は他の医学生と何も変わりなく、1 週間に 1 回あるセミナーでは地域医療についてふるさと枠の学生同士で考えることが出来ます。夏季・冬季の長期休暇では実際に地域医療を体験する事ができ、素晴らしい経験となります。さらに、先輩方や後輩達との交流機会も多く、学年関係無く交流する事も出来ます。そんな充実し学生生活を送りたい、もしくは広島のために何か出来ないかと考えている方は、ぜひふるさと枠でお会いしましょう。



6 年生男子

僕がふるさと枠に入って一番のメリットと覚えることは何と言っても人との繋がりが増えたことでしょう。現在のふるさと枠は在学生だけでも 100 人を超え、卒業された方も含めるとかなりの大所帯となります。これだけの人数と仲良くなれるのはとてもすごいことです。それだけでなく、ふるさと枠のメンバーはメリハリがしっかりしている人が多く、真面目にする時から遊ぶ時までいつも一生懸命です。このような素晴らしいメンバーと共に、学生生活を楽しみませんか？

6 年生女子

ふるさと枠で一番大切にしているものは「縦横のつながり」です。週に 1 度行われるふるさとセミナーは、「セミナー」という名前ではありますが堅苦しい勉強会ばかりではありません。縦のつながり（先輩後輩とのつながり）、横のつながり（同期とのつながり）を強くしていくための時間なのです。入学したばかりの頃には私はこの有難みをよく分かっていませんでしたが、卒業間近の最近になって、ふるさと枠で出来たつながりがどれだけ私の学生生活を彩ってくれたか、そしてこのつながりが働き始めてからは同じ地域医療を志す頼もしい同志となるのだと実感してきました。そう、ふるさと枠で入学するといいいこと尽くしなのです！皆さんもこのつながりに加わってくださると嬉しいです。

〈地域医療実習の様子〉



〈平成30年度新入生と知事との写真〉





入試情報

医学部医学科推薦入試「ふるさと枠」に関する入試情報は、広島大学のホームページをご覧ください。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi>



広島大学

入試に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞 1-2-3

担当：広島大学霞地区運営支援部学生支援グループ（医学部担当）

電話：082-257-5049

その他ふるさと枠全般に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞 1-2-3

担当：広島大学大学院医歯薬保健学研究科地域医療システム学講座

電話：082-257-5894



広島県

Hiroshima Prefecture

奨学金制度に関するお問い合わせ

〒730-8511 広島市中区基町 10-52

担当：広島県健康福祉局医療介護人材課

電話：082-513-3062